

海越えた絆 やすらに強く

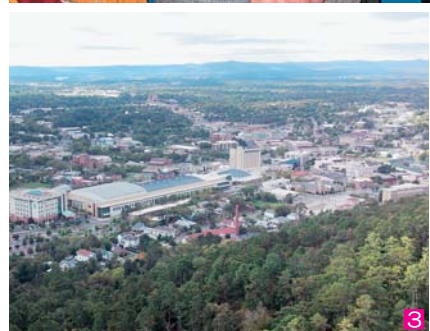
ホットスプリングス市姉妹都市提携20周年



ホットスプリングス市役所で姉妹都市交流について懇談した(左から)パット・マキヤフホットスプリングス市理事、川村伸浩花巻市議会議長、ルース・カーニーホットスプリングス市長、大石花巻市長、キャレン・ガルシアホットスプリングス市理事



1 記念レセプションで「星めぐりの歌」を披露する訪問団の皆さん 2 パーティー形式で和やかに開催された記念レセプション 3 展望タワーから見下ろすホットスプリングス市中心部 4 コンベンションセンターに飾られた鹿踊衣装 5 宿泊したホテルロビーにて記念撮影 6 宮沢賢治モニュメントの前で、「精神歌」を合唱する訪問団の皆さん 7 ロータリークラブの姉妹クラブ提携調印式 8 ホットスプリングス市内に設置された宮沢賢治モニュメント(高さ約2.5m、厚さ約20cm)と、除幕式に出席した(左から)大石市長、宮澤星次さん、加藤元彦在ナッシュビル日本国総領事



平成5年(1993年)にアメリカ合衆国アーカンソー州ホットスプリングス市と姉妹都市提携を結んでから20周年を迎えました。
これを記念して、市の公式訪問団と市民ツアーの皆さんが10月17日から23日の日程で同市を訪問。記念行事などを通じてこれまでの交流の歴史を振り返るとともに、友好の絆を確かめました。

宮沢賢治モニュメント除幕

ホットスプリングス市を訪問したのは、大石市長、川村伸浩市議会議長、佐々木史昭花巻国際交流協会理事長など9人からなる公式訪問団と、一般公募などで参加した34人の皆さんです。
一行は10月20日、ホットスプリングス市の中心部のコンベンションセンターで開かれた宮沢賢治モニュメントの除幕式に出席。同市の民間団体が設置した賢治のシルエット

をかたどったモニュメントがお披露目され、両市民が完成を祝いました。
公式訪問団として参加した、賢治の弟清六氏のひ孫の星次さん(高校1年)が英語でお礼のスピーチ後、日本語で「雨ニモマケズ」の詩を朗読。最後に、賢治作詞の「精神歌」を訪問団全員で合唱しました。

記念レセプション

除幕式に続いて開かれた記念レセプションには、両市の

市民約140人が出席。訪問団を歓迎する和やかな雰囲気の中、進められました。
大石市長は、「この20年間で両市の絆が強まり、さらなる交流が展開されていることを実感しています。これからも両市がより一層繁栄し、交流が広がり継続することを祈っています」とあいさつ。末永い交流を誓いました。

より深まる市民交流

訪問団の皆さんは、行政、観光、産業などの独自テーマを設け、視察研修を実施。花巻ロータリークラブは、現地ロータリークラブと姉妹クラブ提携の調印をしました。
姉妹都市提携20周年を迎え、市民同士の交流がより一層深まっています。

市民ツアー参加者インタビュー



花巻ロータリークラブ 会長 滝田 吉郎 さん

両市の姉妹都市交流が縁で現地のビレッジロータリークラブと姉妹クラブ提携を結ぶことができました。調印式や視察などを通じて現地の人たちの、相手のために考え、行動するという温かい振る舞いに接し、改めて人と人のつながりの大切さを実感してきました。自分自身も、家族や地域の中で同じように接していきたいと思っています。



石鳥谷中学校 教諭 似内 美奈子 さん

ホットスプリングス市訪問期間中、地元の中学校・高校の2校を見学してきました。生徒たちの自分の考えをはっきり言い、会話をしながらより良い方向を探していくという姿勢がとても印象的でした。これからの授業、学校生活の中で、お互いの意見を聞くということの大切さを伝えていきたいと思っています。